

地域ぐるみで育てる 看護の未来

若者の胸に看護の志を

地域と連携深める小諸看護専門学校

看護師不足が深刻化するなか、看護師を志す若者の高学歴志向・大都市・大病院志向がますます鮮明になってきている。だが、小諸市の小諸看護専門学校はそんな風潮に負けず、地域医療の現場で看護師を送り出している。専門学校としての努力もさることな

が、地域の人々や病院・行政とが手携えを携えて学生を育てていることが大きな特徴。地域住民に温かく見守られて育つ看護師の卵たちは、同時に小諸の街の若い活力にもなっている。

「看護学生たちの『よき思い出の地』」

「本当に地元の皆さんに支えられている。医師会だけでは、学校運営は難しい。小諸看護専門学校の佐々木治夫校長は言う。

同校は小諸北佐久医師会が

設立主体で、1952(昭和27)年に准看護師養成のため開校。高学歴化のニーズにあわせて、2003(平成15)年に正看護師を養成する3年制専門学校(1学年40人)となった。

医師会が手弁当に近い形で講師を務めるなど経営努力しているが、小諸市や小諸商工会議所など地元のパックアップと交流が人材育成の大きな力となっている。

小諸商工会議所の香坂勝会頭を会長に約100人が名を連ねる。市民祭で善を褒めるの法被150着、看護師国家試験の問題集、休憩室のテレビなど、学校や行政では手の回らないところにも援助を行ってきた。



夏の小諸市民祭には、そいの法被姿で3会の手踊りを繰り出す

で講師を務めるなど経営努力しているが、小諸市や小諸商工会議所など地元のパックアップと交流が人材育成の大きな力となっている。

高校を卒業した後の市内の進学先は限られるだけに、120人もの若者が街の中にいることは、それだけでも街の活力につながる。地域住民は学生たちを歓迎し、温かい眼差しを向けている。その一つの形が、同窓会とは別に「後援会」組織だ。

「地域を挙げて応援して、学生が伸び伸びと過ごせる環境を作りたい。若いころのよい思い出の地に、いつか人は帰ってくる」。香坂会頭は言う。

病院全体で実習生を見守る

実技を重視する看護学校では、とくに9年生になると連日実習が続く。同校の主な実習先は徒歩で

「街の若い活力」積極的に応援

10分ほどの距離にある小諸厚生総合病院(320床)。敷入すつが各病棟に入り、主任クラスの中堅看護師を中心に指導を受ける。

「後継者は自分たちの手で育てよう」が看護部の合言葉。花里由美子・看護部長は、看護師だけでなく、病院職員全体に、実習生を温かく迎えるムード作りを呼びかけてきたと言う。

でも、患者さんに「ありがとう」と言われた、喜んでもらえた」と感激する子が多い。こういふ感性を大切にしたい。

「福祉施設で働くのも、専門的な技術を身につけよう」と看護を志した(白井竜也さん)という、一度社会を経験した学生。他方、大卒者もいて、国家資格を持って安定した職場で働きたいというニーズもかかえる。



看護への決意を新たにする履修式。男性にはナースキャップではなく、ポケットチーフを授与

中高の職業体験がきっかけに

看護師を目指した動機を2年生に聞いてみると、自分や家族が入院した時、優しく接してくれた看護師に感動した。一と言声が多い。

「体験入学の時に接した先輩や先生方がとても家庭的で親しみやすい。この学校なら自分らしくやっ

と専門的な技術を身につけよう」と看護を志した(白井竜也さん)という、一度社会を経験した学生。他方、大卒者もいて、国家資格を持って安定した職場で働きたいというニーズもかかえる。

同病院の新卒採用は例年20人前後だが、この春は9人が同校の卒業生だった。

「小諸佐久地域からの入学者が少しずつ増えており、今後も地元根付く看護師が増えるのでは」と期待する。

学生は実習だけでなく、病院祭など病院の行事にも積極的に参加している。同病院主催の地域の健康づくりデー

「体験入学の時に接した先輩や先生方がとても家庭的で親しみやすい。この学校なら自分らしくやっ

と専門的な技術を身につけよう」と看護を志した(白井竜也さん)という、一度社会を経験した学生。他方、大卒者もいて、国家資格を持って安定した職場で働きたいというニーズもかかえる。



小諸厚生総合病院で実習する小諸看護専門学校3年生。小児病棟のプレイルームで幼児と目線を合わせて話す

育成講座「実践保健大学」では、受付や会場設営を手伝い、

学生ときの職業体験で排泄援助を目の当たりにして、シヨクも受けたが、むしろ自分何が出来たのか、ちゃんと勉強しようと思った(西村春香さん)と語る学生もいる。

「体験入学の時に接した先輩や先生方がとても家庭的で親しみやすい。この学校なら自分らしくやっ

と専門的な技術を身につけよう」と看護を志した(白井竜也さん)という、一度社会を経験した学生。他方、大卒者もいて、国家資格を持って安定した職場で働きたいというニーズもかかえる。



1日体験入学に参加した男子高校生。後に同校に入学した

「ガンと闘う心」などのテーマのグループワークにも参加。若者の場が参加者に喜ばれたが、看護学生にとっても得る

学生ときの職業体験で排泄援助を目の当たりにして、シヨクも受けたが、むしろ自分何が出来たのか、ちゃんと勉強しようと思った(西村春香さん)と語る学生もいる。

「体験入学の時に接した先輩や先生方がとても家庭的で親しみやすい。この学校なら自分らしくやっ

と専門的な技術を身につけよう」と看護を志した(白井竜也さん)という、一度社会を経験した学生。他方、大卒者もいて、国家資格を持って安定した職場で働きたいというニーズもかかえる。

社会人や男性も看護の道を目指す

地域が育む同校には、多様な「学び」の姿もある。

と専門的な技術を身につけよう」と看護を志した(白井竜也さん)という、一度社会を経験した学生。他方、大卒者もいて、国家資格を持って安定した職場で働きたいというニーズもかかえる。